+博論書式 3(論博書式 3)

令和 2 年 1 月 10 日

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分　　野	理学療法学分野
学籍番号	17S3008	院生氏名	石田　武希
通学キャンパス	成田キャンパス		
論　文　題　目	維持透析患者の易疲労性から捉えた歩行能力低下に関連する 身体的・精神的機能の分析		
審査結果（枠で囲む）	合格　　不合格		

＜審査結果の要旨＞

１．主論文について

本論文は、維持透析患者における疲労を構成しうる要因を明らかにするため、3 つの検討課題を行った。検討課題 1 は、脳卒中によってリハビリテーション病院に入院した透析患者と非透析患者の機能予後を歩行に着目して比較検討した。結果から入院透析患者の機能予後が不良であることが明らかとなり、透析患者における予防的介入の重要性を確認した。脳卒中患者の機能予後について、透析の有無に着目して比較を行った初めての研究報告として新規性がある。検討課題 2 では、維持透析患者において身体活動量と歩行時の疲労を示す易疲労性の関連性を検討し、歩行時の疲労の評価の有用性を明らかにした。結果から透析患者の疲労の評価指標として、易疲労性の中でも主観的易疲労性の評価の有用性が明らかとなった。透析患者の疲労を構成する要因の特定や介入方法の検討の一助になると考えられる。検討課題 3 では、維持透析患者の疲労を構成しうる要因を検討し、疲労を改善させる手段として運動療法の可能性を明らかにするため、主観的易疲労性と身体的要因、精神的要因の関係性を検討した。結果からうつ症状と下肢筋力低下は疲労を引き起こす可能性があると考えられ、疲労を改善させる手段として運動療法の有効性が示唆された。本研究の結果は、透析患者の疲労を改善させるための手段の検討の一助となる。

本研究により、維持透析患者の身体活動量を向上させ、健康寿命の延伸や死亡率の低下をさせるために身体活動量や疲労に着目しなければならない時期、維持透析患者における疲労の評価方法、疲労を構成しうる要因が明らかとなった。本研究は、維持透析患者の疲労に対する介入方法の検討と効果検証に寄与し、最終的に健康寿命の延伸の一助となる研究として高く評価される。

２．審査経過について

われわれ審査委員は、論文審査に先立ち副論文審査を行い、必要条件を満たしていることを確認した。その上で審査会を 12 月 3 日（火）遠隔において、1. 論文の構成、2. 論文の新規性、3. 図表について、4. 統計について、5. 論旨の展開等についての質疑応答を行った。

３．口頭試問の結果

論文提出者は質問事項に対して真摯に回答を行った。論文の構成、統計処理、論旨の展開等について、一部修正を行うこととなった。

4. 合否について

1 月 4 日の修正論文の確認において、 審査会の審査員全員は本論文が著者に博士（保健医療学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。

論文審査担当者	主　査　　黒澤　和生
	副　査　　永倉　透記
	副　査　　糸数　昌史